

2008.07.28：防災・危機対策調査特別委員会

「個人の防災対応力向上対策について」

池田友信委員

この特別委員会、回数も余り重ねることが難しい状況の中で、いかに掘り下げていくかということは、とりわけ市民の議会の災害対策がどのような形で私たちのために、いろいろと議会としてやっていただくかということを期待されている中でありますから、そういう意味で特別委員会のテーマということについては、それぞれの年の中でテーマを変えてきております。

前は、備蓄の問題をいろいろやってきましたが、とりわけ市民から期待される議会の中での特別委員会のあり方というのは、やはり市民の努力なり、あるいは地域での取り組みの状況ででき得ない、あるいはそれをなおかつやりやすくするため、対応しやすくするための環境をいかにするかということが非常に望まれているところなんだと私は思っているんですよ。

特に、自助努力、共助、公助とありますが、自助努力については、それぞれの町内会の活動で非常に格差があるのが現状だと思うんです。やっているところはすごくやっている部分ありますが、ある意味では、やられていないところをどういうふうレベルアップするかという、そういう課題はあると思うんですね。その辺を、我々が掘り下げていくということも、これが大変大事だと思うんですが、やられているところの地域においては、もっと他都市との比較をする中で、何で仙台はこういう環境ができ得ないのかと、災害のときこういうことがあると非常に助かると、あるいはそういう部分で行政を少しメス入れてほしいと、こういうのが議会に託される分野だと思うんです。ですから、そういうテーマをいかに我々、特別委員会として、調査をし、あるいは当局といろとちょうちょうはっししながら、仙台でやれないことをやってもらうと、あるいは行政側にそれを進めてもらうと、対策を講じてもらうと、こういう方向に取り組んでいくことが私は非常に大事なことではないかと。

特別委員会でかつては福祉関係なんかやったときは、いろんな形の福祉施設を議会みずからが取り組んで改善していったとかありますけども、行政側として今、災害が起きた場合にほかの都市でやられていて、仙台の方でまだ取り組みが進んでいないと部分は、ある意味では重要な部分がたくさんあります。その辺を、私は議会として、テーマとして取り上げることも必要なと、そしてなおかつ、この今回一応案として出されている個人の防災対応力向上対策という部分も、これも大変必要だと思うんですが、共通してやっぱり議会側の目で行くと、市民の目で、行政がどんな形でここに対応してほしいのか、あるいは対応すべきだという提言をして、今回のまとめをして、議会として執行部の方

にこうすべきだということの提言をするということが、私は大変大きなことだと思います。

例えば、災害が起きて避難場所に行ったときに、トイレがありますけれども、トイレが組み立て式で40分から1時間くらいかかって組み立てるトイレを4機なり5機なり学校ごとにつくってありますが、もっとやっぱり大変なのは地域町内でそういう方々に対するトイレをですね、ほかの都市で例えば公園でやられているのが、仙台でまだやられていないとか、いろんなものがあると思うんですが、そういう部分の環境整備をするということが私は非常に大きいかないかと思っておるんですが、そういうテーマをこの中では、ちょっと個人という形になっちゃうとですね、取り上げる論点からちょっとずれるような部分になっちゃうんで、私としてはそういうこと期待していたんですが、もう一つ裏返していくと、今そういう地域格差、地域の町内の中での防災意識の格差という部分があるもんですから、それをいかにして向上させるかという行政側としてのレベルアップする対策をやることも大事ななというふうに思っていますので、私としてはこのテーマの取り上げの中で、後者を委員長としては案として出されておるようでありますが、急を要する行政側の災害対策ということについての環境整備というのは、私は非常に急がれることが多いので、これは本日提案されたテーマでするならば、いずれの機会かでそれは別途取り組むしかないかないかと思っておりますけども、できれば特別委員会で、そういう部分で大きなメスを入れて、なたを振るって、その仙台市の災害対策ということが環境整備されると、地域の町内の人たちは非常に安心するのかなと感じております。

その辺の兼ね合いの論議を、ここでどんな形で持っていったらいいのか、委員長の御意見をいただいて、こっちでまとめるというならばそれもいいし、そんな形でひとつ御意見をいただきたいと思っております。

委員長

貴重な意見ありがとうございます。副委員長と相談する中で、今回のテーマに絞った一つの大きな理由は、6月14日に発生した地震がありました。その前にちょうど12日に防災訓練があって、その中で避難所まで町内会の行動の中で避難する、避難所まで行くその前段で実際、私の住んでいるマンションでも、中でテレビが倒れたり、あるいは水道の配管が壊れて水浸しになったりという、要するに自分でみずから守らないと避難所に行く前、前段で既に被災されているという部分が非常に大きく感じたことがあったものですから、今回の委員会の中で、まず行政が責任をもって避難所でいろんな準備をするのはもちろん大事なんですけども、そこまで行く前段で、やっぱり個人としてやれることはしっかりと取り組んでいかなければだめだろうと、そのためのレベルアップをど

ういうふうに行政として図っていくのかということも議論したいということもありましたので、今回副委員長とも相談して、まずは、もっとわかりやすく言うと身の回りの耐震化というか、そこからスタートをすることが大事かなということでこういうテーマに決めさせていただいたんですけども、そういう意味では、できれば池田委員にもその辺を御了解いただいて、今回のテーマで、もしやらせていただければ、そういう形で推し進めさせていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

池田友信委員

確かにそういう部分あるんですね。災害が、まずスタートの時点で少なければ少ないほど、全体的な、面的な形で対応する、対応がしやすくなりますから、ですからいかに個人的に災害対策を、その防御体制をとっておるかどうかによって、被害が大きくなるのか、小さくなるのか、その辺が大事なことだと思うんですが、それを個人的に任せることなく、面的に、いかに全体的に対応、体制がとれるかどうかの工夫は考えなければならない。それは行政側として取り組まなければならない課題でもありますので、そういう観点から論議を深めていくということも必要だと思うんですが、ぜひそういう避難所に行って長期戦になってくると、行政側の問題がすごく表に出ます。特に先ほどのトイレなんか絶対表に出て、不満が出てきますし、かえってトイレに行けないから水を控えて血圧で倒れるとか、そんな問題が出てきますから、そういう状況は論議の過程の中で一応意見交換させてもらえればいいと思っています。

池田友信委員

3点ありますが、一つは先ほど意見出ておりました受け入れの問題ですが、これを仙台市で発生した場合のことを想定すると、そういう受け入れ態勢の部分で仙台市としてはこれからどんな準備をしなければならないのか、対応するための対策はどのように感じたのか、その辺の御意見をひとつ。特に宮城沖地震で、前回の宮城県沖地震のような状況になった場合が想定されると思いますので、その辺の感じているものがあつたらひとつお聞かせいただきたいと思います。

危機管理監

今回の地震は、仙台市自身はそんなに被害がございませんでしたので、実際は栗原市等の災害対策本部が大変な思いをされたというふうに思います。私も、実際の宮城県沖地震が来たときにどのようになるのかというのは、いろいろ想像はするんですけども、相当大変だろうなというふうな印象は持っており

まして、具体的にはどのようなことということに對しましては、なかなか具体的にお答えすることができませんけれども、やはり今回の教訓をいろいろ検証してですね、どうやったらスムーズに受け入れとかがやれるのかは、実際のところこれから真剣になって考えなければいけないなというふうに思っております。

池田友信委員

それで後、分析出ましたらまた意見交換させてもらいますが、やはり受け入れた場合、災害対策のセンターづくりですね、これやっぱり特に仙台が中心となって発生した場合に、じゃ、どこにセンターを持ってきてどういうふうにするのかということが、今の消防局の中ではまったく中央部で、交通麻痺の状況の中でそこをセンターにして本当に対応できるのかなと、私は感じてますのでまた、後ほどこの辺は意見出したいと思います。

二つ目にですね、一般の人たちからも意見をよく言われるんですが、この報告の中にありました、自衛隊さんのですね、この対策というのが非常にやっぱり機動力があっていいんですが、これは知事が判断したと思うんですけど、自衛隊の派遣に対して一応中断して、要するに途中で自衛隊さんを置いて、現地の警察と消防団で対応するような感じになったんですが、あの辺の、もしわかれば、どんないきさつでああいうふうにしたのか、一般の人から見れば、何で災害対策本部は普通、自衛隊さんがやるのに。交代交代でやる部分も自衛隊さんの中でやれると思うんですけど、お断りしたというのはどんな形なのかなと、私はちょっと非常に疑念を感じたんですがね。なんかその辺に判断があるんですか。

消防局長

今の池田委員の、いわゆる県知事あるいは栗原市長の判断ということになるわけですけども、仙台消防というか県内の消防の応援に関しては23日の月曜日に撤退ということで、その際には栗原の市長から、大変よくしていただいてありがとうございますという感謝の言葉をいただきながら、撤退したと。自衛隊さんの場合は、その前の週、たしか19日あたりだったと思いますが、当然、栗原の市長さんの判断に基づいて、県知事も、県知事が自衛隊に対して要請するわけですので、県知事の最終的な判断で、いわゆる救助の部分について自衛隊は撤退すると。

消防もそうなんですが、通常よく言われる72時間ですね、例えば、あまり適切ではないかもしれませんが、いわゆる倒壊家屋の下敷きになっているとか、生き埋めとか、そういった場合の判断基準として3日間、72時間ということ

ございます。今回ちょっと様相が違っていたのが、中越地震とか中越沖地震もそうですが、普通は瓦礫の下、倒壊家屋の下ということなんですが、今回土砂崩れなんですね。確かに地震が原因ではあるんですけども、土砂に埋まった状況がほとんどの現場でしたので、知事の判断も、救助に関して、14日から19日まで自衛隊やっておったわけですので、その辺の限界点を超えたのかなという判断は当然あったとは思いますが。

それで消防、警察、まだ引き続きやったわけですけども、どんどん地点がなかなかわからないということもございまして、最終的には23日に県内消防本部撤退して、委員がおっしゃったように現地の消防本部と警察の方で、それ以降捜索、いわゆる救助活動というよりは検索活動といいますか捜索活動というか、それを継続していたというような流れになっております。

池田友信委員

仙台で起きた場合でも、ある意味ではこの3日間、72時間ということで、そういう撤退をするという想定に対応を考えているわけですよ。そうするとね。ある意味ではね。災害の状況によってでしょうけども。

我々ニュースを見て、テレビの状況を見ると、一般の方からも、現地の人だけで大変じゃないかと、なんで手伝って作業残ってやらないのかなという素朴な意見が聞かされるわけなんです。現地の数少ない人たちで、そこが全部中断、撤退ということだったらいざ知らず、現地の少ない警察官とか消防団でやっているところに、もう少し国の災害対策として自衛隊の方がもう少し長い方がいいんじゃないかと、あるいは人員交代でやってもいいんじゃないかと、こういうふうな意見もあったんですね。ですから考えようによっては、仙台で起きたらこういう状況の対応、体制をちゃんときちんと長くやってこないといけない体制をつくらないといけないなというふうに感じたわけなんですけどね。

その辺は、今の見解とか何かというのは判断でそうなのか、基準でそうなるのかあれですけどね。ここでは深く掘り下げませんが、一応仙台の方としても考えなきゃいけないというふうに感じました。

三つ目にお伺いしたいのは、今回のテーマでもあるように、この地震のときに、仙台市の災害の震度の状況によって、町内会にどんな対応をしましたかと、こういう形でいろいろ調査もされたことだと思うんですけど、大体、まだまとまってなければいいんですが、その辺の状況がわかれば教えていただきたいし。

予防課長

今回の地震でございますけれども、仙台市におきましても震度5強を記録いた

しましたので市内の自主防災組織におきまして、家庭や各個人におきまして、どのような活動を行ったか、地域でどのような活動を行ったかということにつきまして、各消防署です、73カ所でございますけれども聞き取りの調査をしております。

それで、聞き取り調査の結果でございますけれども、まず行っておりますのが、地域におきます安否情報の確認を行っております。それと被害状況の確認を行っております、それで声かけを行っているという状況でございます。それで、その73町内会すべて何らかの活動を行っているということでございます。

池田友信委員

まさにこれが今度のテーマの中にも入ると思うんですね。自主防がこういう震度でどんな形で動いたかということが仙台市の中でその状況を把握されたと。

73ですから、ごく一部ですわな、傾向を見ていただいてその辺の判断をもう少し分析することによって、それぞれ自主防の活動のあり方とか、安否の確認の仕方とか、いろいろレベルがあると思うんですが、その辺を後で今度のテーマのときに詳しく聞きたいと。それが我々のこの一番の出発点ですから、これからの特別委員会としてね。それを聞きたいと思うんですが、この間の内陸部の県境であった災害のときにもそういう調査をしたんですか。

消防局長

岩手・宮城内陸地震においても当然、防災安全課、予防課、そういったところが調査に入っております、避難所等から聞き取りも実施しております。必要であれば、委員長さんと相談しながら資料提供させていただきます。

池田友信委員

あわせてこの次、お聞かせいただければと思います。

この災害の中で、やっぱり広域的な部分での災害対応、体制というものが、これ本当に行政側として求められる大変大きな課題だと思うんで、ぜひ今回の経験を生かして、特に近隣の消防体制から応援もらったときの受け入れ態勢の問題とかね、指揮の体制とかというのが、私、非常にこれから仙台市として課題だというふうに思いますので、その辺十分生かしながら対応していただきたいということを言って終わります。